

## アドリアシン+イホマイド（AI 療法）を受けられる患者さまへ

・抗がん剤は、増え続けるがん細胞を攻撃する作用があります。がん細胞と同時に正常な細胞にも影響を与え、それらが副作用として現れます。副作用は必ず起こるわけではなく、その程度には個人差があります。個々に適切な処置を行い対応します。多くの副作用は治療終了後には回復しますので、正しい知識を身につけ、治療を受けましょう。

### [投与スケジュール]

・**4 週間を1コース**として行います。

腎障害・出血性膀胱炎を予防するために、1 日目から 4 日目まで 2L 程度の輸液および予防薬を別途投与します。そのため、点滴時間もそれらに応じて長くなります。

薬品名	薬の効能	治療スケジュール			
		1日目	2日目	3日目	4～28日目
デキサート グラニセトロン	吐き気止め	15分 		休	休
デキサート アロキシ	吐き気止め	休		15分 	
イホマイド	抗がん剤	4時間 			
アドリアシン	抗がん剤	5分 			

### [副作用について]

#### 骨髄抑制：白血球減少・ヘモグロビン減少（貧血）・血小板減少

・骨髄抑制は白血球やヘモグロビン、血小板などが減少する状態です。白血球が下がると細菌感染が起こりやすくなります。ヘモグロビン減少による貧血症状、血小板減少により血がとまりにくい症状も現れることがあります。抗がん剤を投与してから 7～14 日目くらいで最も減少すると考えられています。一般的には約 2～4 週間で回復してきますが、減少する程度によって治療を休むことや投与量を減量することがあります。また、放射線を受けている方は、骨髄抑制が強くなる場合があります。

【対策】**フィルグラスチム、ノイトロジン**の投与（好中球を上げる薬）

#### 【注意事項】

- ① **外出時はマスクの着用**を心がけ、人ごみは避けましょう！
- ② 外出から戻った時は、**手洗い・うがい**をしましょう！
- ③ 体調が悪くなければ入浴はできます。きれいな浴室に入り、体を清潔にしましょう！

- ④ 歯磨きは口の中を傷つけないように、柔らかい清潔な歯ブラシでやさしく磨きましょう！
- ⑤ ひげそりは電気カミソリを使用するほうが望ましいです。
- ⑥ 貧血時は急激な動きを避け、十分な休養をとって無理をしないようにしましょう。  
めまいなどの症状があれば安静にして、動くときはゆっくり動きましょう。

## 悪心・嘔吐、食欲不振

・悪心、嘔吐は抗がん剤による胃や腸の粘膜障害および運動障害などで起こると考えられています。吐気、嘔吐および食欲の低下をおこします。症状の程度や持続時間には個人差があり、投与当日に症状がでることもあれば、5 日間ほど続くものもあります。

【対策】①吐き気止めによる予防・治療

- ②食事制限がない場合、**好きなもの**を少しずつ食べてください。  
香りの強いものや脂肪の多い食品は避けた方が良いでしょう。
- ③水分をきちんととるようにしましょう！

## 口内炎

・口の中の粘膜に炎症が起きた状態です。症状は痛み、ヒリヒリ感、食事がしみる、出血、赤く腫れる、口の中の乾燥などがあります。喫煙、アルコール、刺激のある食品は避けましょう！

- 【対策】①ケナログ軟膏、プロマック D・アルロイド G によるうがい、アロプリノール嗽液  
②水によるうがい(1 日 4~5 回)、歯磨き(やわらかい歯ブラシ)

## 脱毛

・抗がん剤によって頭皮の毛根細胞が障害を受け、毛が抜けやすくなります。髪以外の部分でも起こります(体毛、眉毛、陰毛)。治療が終了すれば 3~6 ヶ月後には再び髪が生えてきます。

【対策】ウィッグ(鬘)、帽子

## 腎障害

・イホマイドを投与することで腎臓に負担がかかり腎障害を起こすことがあります。  
症状は尿が減少したり、むくみが現れたりします。

【対策】水分補給・輸液(薬を排泄するために尿を出しやすくすることが必要になります)

## 出血性膀胱炎

・イホマイドを投与することで出血を伴う膀胱炎になることがあります。  
残尿感および肉眼で見えるほど尿に血が混じる症状が見られます。

【対策】解毒剤のウロミテキサンを同時に投与します。

また、水分補給・輸液(薬を排泄するために尿を出しやすくする)を投与します。

## 心毒性

・アドリアシンの影響で心障害がおこることが懸念されています。本剤投与時は必ず、心機能検査（心エコーなど）を受けていただきます。心障害の主な症状は呼吸困難、むくみ、胸痛、みぞおちや頸部がしめつけられる、圧迫感、冷汗などと言われています。これらの症状が起きたら、スタッフに相談して下さい。

## 尿・汗の着色

・アドリアシンは赤色をしています。アドリアシンを注射してから1～2日の間、尿や汗に色（赤色・桃色・橙色等）がつくことがあります。その後元に戻ります。

## 血管痛・静脈炎

・薬が血管を刺激するため、投与している腕などに痛み、腫れ、ピリピリ感がでることがあります。数日後にも発赤、腫れ、熱感などを感じる事があります。

## 間質性肺炎

・この肺炎は酸素を取り込む肺胞（小さな組織が多数集まったブドウの房のような形）の壁（肺胞と肺胞の間）に炎症を起こします。症状は空咳（痰の出ない咳）、発熱、息切れ、呼吸困難などがあります。ただのかぜと見過ごすことがありますので、自分で判断せず、医療機関を受診しましょう。

- \* その他、気になる症状があらわれた際や不安な時は、必ず医師、薬剤師または看護師に遠慮なく声をかけてください。
- \* **休日、夜間に調子が悪くなった場合は、救急センターに受診することをお勧めします。**その時は、事前に病院に連絡をしてください。

済生会横浜市東部病院 化学療法センター

☎ 045-576-3000



図：副作用の発現時期

